

■■■■の発見と救助についてのご報告

那須清峰高校 本嶋佑己（3班引率）

当時の状況を思い出しながら書いたものです。情報量としては不十分かもしれませんが、何卒御容赦ください。

最初に発見したのが誰なのかは不明です。しかし、私がおのちを引き継いだことは確かです。雪面から40～50センチ下に埋まっている状況でした。体の一部（確か左腕だったと記憶しています。）が見えていたことから、そこを中心に掘り始めました。顔全体が出た際に、「聞こえるか」と怒鳴ったところ、もうろうとしながらも「はい」と返事してくれたので、ほっとしたことを覚えています。体勢は仰向けに近かったと記憶しています。唇が真っ青でしたので、早く体を雪中から出さなければと思い、掘り出していきました。掘り出している最中も、話しかけ続けました。上半身が出たところで、引っ張り出そうとしましたが、「足が何かに引っかかっている」ということでした。しばらく掘り進めていくと、体の右側に生えている木に左足が引っかかっていることが分かりました。そこで、少し躊躇したことを記憶しています。木に引っかかったということは少なからず木に激突しているのではないかと考えたからです。無理に体を動かすことは危険かもしれないと判断し、本人に痛みの状況や手足の感覚の有無を尋ねました。上半身（左右）と両足の感覚があり、つまさきや足首を動かすことができると聞き、脊椎への損傷がある可能性は低いと判断し、全身を掘り出すことにしました。

ほとんど全身を掘り出せたところで、矢板中央高の■■■先生と交代し、他の生徒の救助に向かいました。

*手書きですが、図1と図2を同封させていただきました。見づらいとは思いますが、御容赦ください。

図1：■■■■の体勢について

図2：■■■■の発見場所について



木

左足

右足

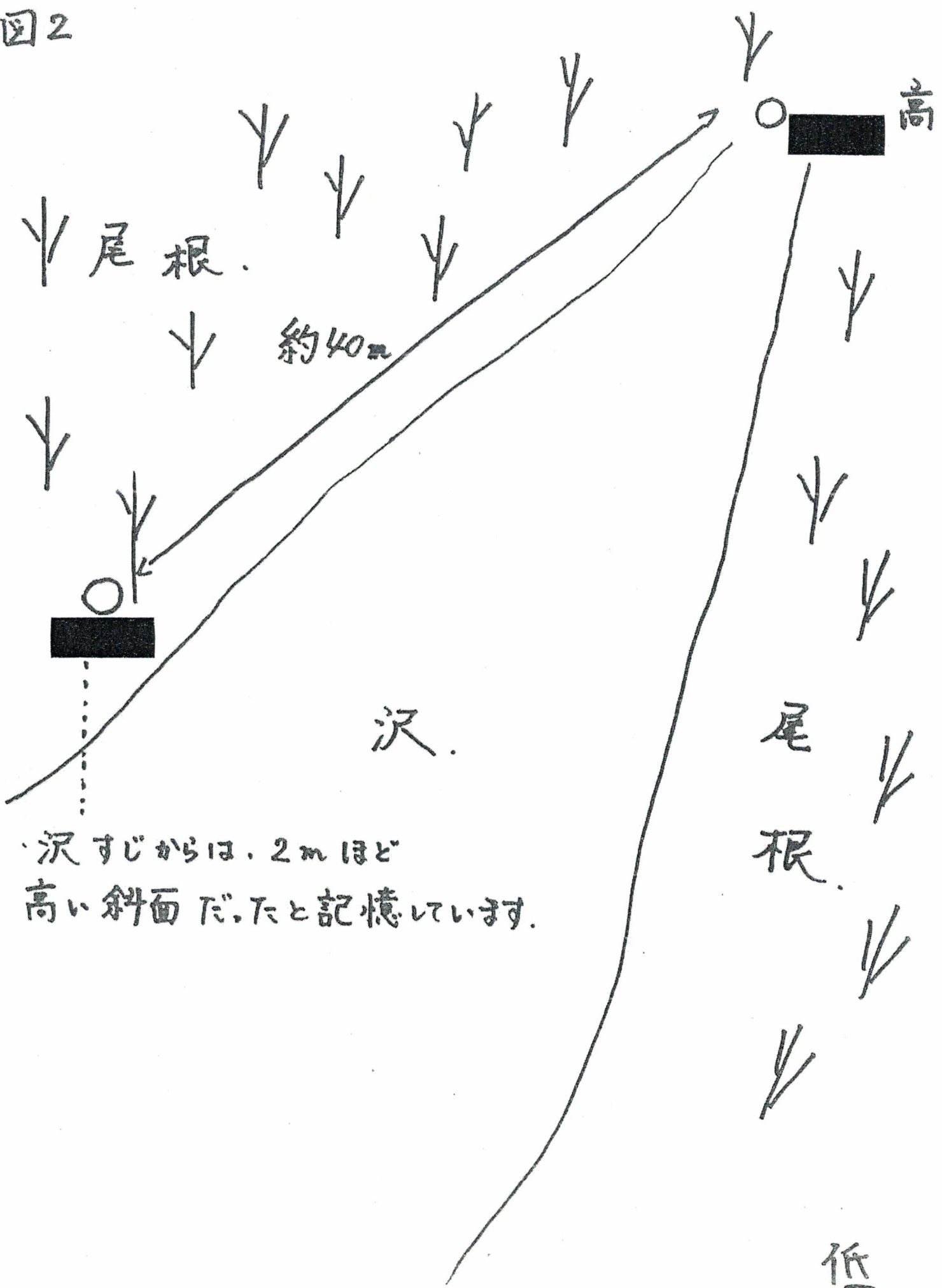
下半身

上半身

↑ ひざを支点に「く」の字で
右足が木に引かかっています。

※ 振り出すまでは、はきりと
分かりませんでした。

図2



・沢すじからは、2mほど
高い斜面だ。たと記憶しています。